

【何が変えたのか】

学校がはじまって4日目の金曜日、朝。

明日はお休みて心弾んでいるはずなのですが、登校してきてなかなか下駄箱へは向かないAさん。

このあと、立ち上がって、私が立つ横断歩道の向かい側で、しばし「あいさつ運動」を一緒に始めました。

そして、よくよく耳を澄ませて聞いてみると、私のイントネーションに合わせてあいさつをしています。



わたし 「おお、あいさつ運動してくれているの。ありがとう」

Aさん 「……」

わたし 「いっしょにやってくれると助かるなあ」

Aさん 「……」

しばらくあいさつをしたら、ふいにぷいっと方向を変えて、下駄箱に向かっていきました。**(あれ? どうした?)**

何が、Aさんの気持ちを変えたのでしょうか。何か特別なことがあったわけでもなく、何か特別な会話もあったわけでもなく。

私の心には謎が満ちるばかり。きっと、何かでAさんの気持ちが満ちて、スイッチオンとなったと思うのですが…。人間とは奥深い生き物だと、Aさんの行動に朝から哲学させていただきました。

(しらが頭、すみません)

先日、ふとしたことで、子どもたちは立っていて私が腰かけており、子どもたちが私を見下ろす状況になったことがありました。

すると、私を囲っていた子どもたちが、わたしをいじること、いじること。まずは、頭を見て「シルバーの髪の毛がずるい」とか、口の中がよく見えたのか「銀歯がある。見て見て」「おばあちゃんは金歯だよ」などなど。視線がいつもと逆転していたせいか、普段とは違う視点に発見がいっぱいだったようです。

とても饒舌に、とめどなく話す子どもたちを見て、「子どもの視線で話す」という意味を痛感し、「せんせいくらいになれ」という本の題名が頭をよぎりました。

(なんだかんだ、やっぱ、えらそうにしちゃってるんですかねえ。反省)

